

法政大学大学院キャリアデザイン学研究科

進学希望者からよく寄せられる質問について

※入試要項、入学案内、大学院ウェブサイトもあわせてご確認ください

※大学院ウェブサイトには、全研究科共通の「[大学院入試に関するQ&A](#)」を掲載しています。あわせてご確認ください。

1. 研究計画書には何を書けばよいですか？

研究計画書に書くべきことは主に、「研究テーマ」「研究の意義」「研究対象と方法」です。

「研究テーマ」には、自分が修士論文を通じて明らかにしたいことを書きます。研究テーマの立て方については、学術的な論文・レポートの書き方に関する書籍がいろいろと市販されていますので、参考にするとよいでしょう。

「研究の意義」は、その研究を行うことがなぜ社会的に重要なのかを読み手に説得的に書く部分です。研究の意義を述べる上では、関連するテーマについての先行研究（これまでに行われてきた研究）に適宜言及しながら、自らの研究の意義を明確化させることが大切です。先行研究で既に分かっていることを自分が明らかにしようとしても、その研究には社会的な意義が認められません。他方で、自分が行おうとしていることがまったく新たな分野の研究のように見えても、これまでの研究の知見や方法論を活かして分析することにより研究の深みが出てきます。また、先行研究に適切に言及していることは、研究計画書の事前審査の中で、あなたがこの問題にどれだけ関心を向けてきたかを判断する手掛かりにもなります。先行研究を探す上では、できるだけ、その分野の専門家の学術書・学術論文を探して読んでおくことをお勧めします。Google Scholar は学術論文、研究者の情報の検索に最も広く利用されています（※1）。Webcat Plus というサイト（※2）からは、キーワードから関連する書籍が検索できるだけでなく、共著に収録された論文なども検索ができ、公立図書館における所蔵もあわせて検索ができます。また、CiNii Articles というサイト（※3）からは学術論文の検索ができます。

先行研究に言及する場合には、著者名・タイトル・出版社名・出版年（雑誌論文の場合は雑誌名と号数も）などを明記し、その先行研究の知見と自分の意見を明確に書き分けるようにしましょう。

「研究対象と方法」では、どのような対象に対して、どのような方法を用いて調査研究を行うかを記します。キャリアデザイン学研究科では、実証的な研究を重視しています。具体的には、ヒアリングやアンケートを実施する、自分が入手・利用できる既存データ（人事データ、進路データなど）を新たな視点から加工し分析する、などです。その場合、そのような調査研究が現実的に実施可能か、ということも重要な審査基準となります。例えばあなたが高校生にアンケートを実施したいと思っても、協力してくれる学校がなければ、学校を経由したアンケートは実質的に困難でしょう。そのような現実を踏まえて、実行可能な「研究対象と方法」を示すことが求められます。なお、調査研究の方法については、詳しくは「キャリア調査研究法基礎」「質的調査法」「量的調査法」の授業を用意しています（このうち2科目以上を選択必修）。

※1 : <https://scholar.google.com>

※1 : <http://webcatplus.nii.ac.jp/>

※2 : <http://ci.nii.ac.jp/>

2. 基礎から体系的に学びたいのですが…

上記「1」の通り、我々は入学段階で研究計画書の提出を求めています。つまり、そのテーマに関する基礎的な学習は自分でできていること、また入学後も自主的な学習を進めていくことができる能力があることを前提として入学を許可するものとお考えください。

3. キャリアヒストリー報告書には何を書けばよいですか？

あなたのこれまでのキャリアヒストリーを書いていただきます。しかしながら、あなたの人生を大いに語っていただきたいわけではありませんので、簡潔にお願いします。

審査を行う我々は、上記の研究計画書との関連であなたのキャリアヒストリー報告書を検討します。我々は、あなたがどのような職務経験、社会経験を積み重ね、その中でどのような問題意識を持ち、なぜキャリアデザイン学研究科で学びたいと考えるに至ったかを推し量りながら読みます。より具体的には、「このキャリアヒストリーの人が、なぜこの研究テーマ・研究対象・研究方法なのか」、「この研究計画は、この方のキャリアヒストリーと照らし合わせて実現可能か」、「この研究を行うことは、この方のキャリアに今後活かしていけるだろうか」といった観点からキャリアヒストリー報告書を検討します。

4. 職務経験がないのですが…

職務経験があることは受験の条件ではありません。しかし、調査研究の対象が確保できるか、現実的な問題意識を持っているか、研究の成果を活かせるフィールドがあるか、といった観点から、これまでの入学者のほとんどは職務経験がある方々です。

5. どのような先生が授業を担当しますか？

「[法政大学大学院 入学案内 2024](#)」に担当教員名が記載されていますので、ご確認ください(※4)。それぞれの教員のプロフィールや研究業績などについては、法政大学ウェブサイトの「[学術研究データベース](#)」や上記「1」の Google Scholar などを活用して調べてみてください。専門分野や担当科目だけを見て判断するのではなく、実際の研究業績を検討して進学を判断することが望まれます。

※なお、キャリアデザイン学研究科では、出願にあたり、事前に志願者の皆様と連絡を取ることはいたしません。

※4：在外研究のため、年度によって当該授業を兼任教員が担当する場合があります。

6. 指導教員はいつ決まりますか？

修論執筆のための指導教員は、修論提出の前年度の冬に決まる予定です。従って、同じ年度に入学をしても、長期履修制度の利用の有無、さらには長期履修制度を利用する方の中でも、3年を選択するか4年を選択するかで、指導教員が決まるタイミングが異なります。例年、修論提出の前年度の秋頃に指導教員の希望届けを提出し、冬頃に希望状況・テーマ・研究方法を総合的に勘案しながら研究科教授会が選考を行って決定となります。指導教員による修論指導は在籍予定年数の最終年度の1年となります。なお、出願の際の書類に希望指導教員名は記入不要です。

7. 専攻するプログラムはいつ選ぶのですか？

キャリアデザイン学研究科には「発達・キャリア教育プログラム」「ビジネスキャリアプログラム」の2つのプログラムがあり、出願の際に選択する予定のプログラムを記入していただきます。いずれかに属するプログラム科目を3科目以上履修し、当該プログラムの担当の教員の演習（修士論文執筆指導）を受講することが修了の要件の一部となっています。

このプログラムは、入学後に一定期間を経過したのちに正式に決定します。出願時に選択したプログラムからの変更はその時点までは可能です。しかし入学前から、自らの研究計画と照らし合わせて、どちらのプログラムで学ぶのか考えておき、1年次からの科目履修に反映させることが望ましいでしょう。

8. 事前の相談は可能ですか？

大学院入学に関する相談は、進学相談会を利用してください。2023年度は下記の日程を予定しています。いずれもZOOMを利用したオンラインでのグループ相談会を実施します。

- ・10月14日（土）シンポジウム・進学相談会
- ・12月02日（土）研究計画書に関する説明会・進学相談会

9. 仕事との両立が心配です…

標準的な通学日数は、1年次は土曜を含めて週3日程度です。修士論文を執筆する年次は科目の履修よりも修士論文の執筆が中心となります。修士論文執筆のための演習の曜日・時限は、各指導教員と相談の上で設定されます。これまでの修了生のほとんどの方は、2年間で修士論文を書きあげ、修士課程を修了しています。 Semester制を取っているため、2年を超える場合、2年半での修了が可能です。

なお、2018年度より、長期履修制度を導入しました。長期履修制度とは、通常の修業年限（修士2年）に必要な授業料について、修士課程の場合は3年または4年のいずれかを選択し分納することを可能にする制度です。長期履修制度の利用は入学手続き時に決めます。

10. 時間割は公開されていますか？

今年度の時間割は[大学院ウェブサイト](#)で公開しています。次年度の時間割については、毎年3月中旬に更新（公開）しています。

11. 短大卒ですが、受験できますか？

四年制大学を卒業していない方については、事前に別途個別の資格審査を行い、受験を認めるか否かを判断します。入試要項をよく確認してください。これまでに、短大卒でも受験を認められたケースはあります。

12. 筆記試験では、どのような問題が出ますか？

[大学院ウェブサイト](#)で過去問題を請求することができます。

13. 面接では、どのようなことが尋ねられますか？

研究計画書やキャリアヒストリー報告書などの事前提出書類をもとに、主に問題関心や研究計画について質問を行いますので、それに答えていただくことが中心となります。遠方の方や勤務条件が厳しい方などについては、実際に通学ができるかを確認させていただくこともあります。

14. 過去の修士論文のテーマはどのようなものですか？

過去の修士論文のタイトルを抜粋して例示すると、以下の通りです。

<キャリア教育・発達プログラム>

- ・大学キャリア教育科目における協同学習の効果
- ・学部での専門性と関連する進路探索活動の有無が大学生の就職活動に及ぼす影響
- ・スクールカウンセラーによる不登校中学生へのキャリア支援に関する研究
- ・就労移行支援事業所の訓練が精神障害者の就労後の定着に与える影響
- ・障害者就労支援の現場における公共職業安定所の役割と組織についての一考察

<ビジネスキャリアプログラム>

- ・女性管理職のマネジメント行動—男性管理職との比較による分析—
- ・看護管理職の技能形成の分析
- ・キャリア開発を促進する企業内キャリア・カウンセリングの効果と必要性
- ・企業の女性両立支援における労働組合の活動と効果について
- ・技術者の経験を通じた熟達要因

以上